ところざわ倶楽部

野老澤の歴史をたのしむ会

渡辺隆喜先生を囲む座談会

攘夷と開国の間（はざま）　近代エリートの形成

２０１９．８．７　島川謙二

実施日　　2019年8月1日（木）　　１５：００　～　１６：５０

会　場　　新所沢公民館

参加者　　２７名

　梅雨が明けた後の猛暑のなか、恒例の渡辺隆喜明治大学名誉教授による夏期講座が８月１日に開催されました。今回のテーマは「攘夷と開国の間・近代エリートはいかに形成されたか」というもので、サークル会員２７名が新所沢公民館に参集しました。

▼近代エリートとは明治10年までに国家諸分野の要職についた「近代日本の初期リーダー」で、幕末維新期の海外留学生と維新政府のエリート養成策（貢進生制度）によるものとがあり、嘉永６年（1853年）の開国以降の洋学輸入につながっている。江戸前期の洋学蔑視から中期には外国に目を向け、やがて幕末期に蘭学から英仏独語の重視へと傾く。

講師　　渡辺隆喜先生

受講生のみなさん

▼安政４年（1857 年）「**蛮書調所**」（のちの東京大学）が幕府直轄の洋学研究教育機関として開校。翻訳から研究へ。文久２年（1862 年）正月の「桜田門外の変」で時代は大きく変わっていく。医学、天文、砲術など軍事だけでなく人文科学も。研究者の増大。全国 300 藩のうち西国中心に 73 藩に洋学科が置かれ、佐賀藩（大砲の鋳造）、薩摩藩（洋式砲術の進化）長州藩（洋式帆船）などが注目される。

私塾でも 1849 年～1872 年までに 98 塾が開校。江川塾（韮山・江川太郎左衛門・兵学）、鳴滝塾（長崎・シーボルト・医官）適塾（大阪・緒方洪庵・医学、大村益次郎や福沢諭吉が塾頭に、のち大阪大学へ）など。

▼**海外留学生**には 1862 年幕府のオランダ留学生として榎本武揚、西周ら。1863 年長州藩のイギリスへ密航した伊藤博文、井上馨ら。1864 年安中藩のアメリカへ密航した新島襄。1865 年薩摩藩のイギリスへ密航した１９名の視察員・留学生には五代才助、森金之丞ら。1866 年には海外留学が公認され、幕府から日本資本主義の父・渋沢栄一がフランス、勝海舟がアメリカへ留学。こうして 1860 年から幕末までに幕府から 65 名、諸藩（薩摩藩 26 名、長州藩 17 名など）から 60 名など 153 名が留学。

▼明治以降はぐんと留学生は増えた。明治元年から７年までに 550 名が出かけ、うち明治３年に 187 名、４年に 218 名と 74%を占めており、行き先もアメリカ 209 名、イギリス 16 名ドイツ 82 名、フランス 60 名である。

貢進生として国家的人材の育成を目的に各藩から優秀な 16 才から20才の若者を選抜して「**大学南校**」で学ばせた。国家的自立を担った「**和魂洋才**」の者。自然科野、法曹界、政治家などに逸材を輩出し日本の近代化に尽くした。

渡辺先生と受講生

私は昨年夏、司馬遼太郎の『翔ぶが如く』（文庫１０巻３６００ページ）を読んで大河ドラマ「西郷どん」を見るのを止めました。西郷吉之助が幼少の時、島津斉彬に会うという第１回から違和感はあったのですが、笑福亭鶴瓶の岩倉具視、林家正蔵の大村益次郎にアホくさくなったからです。時代考証を大石学氏、磯田道史氏が担当していながらなぜ？・・・・・と思いました。林真理子の原作、中園ミホの脚色の限界でしょうか。

明治維新では薩長土肥の上級武士が大臣クラス、中下級が軍人、官僚、警官を占めています。薩摩の下級武士・川路利良は西郷に戊辰戦争で能力を認められ、フランスで警察制度を学び、日本の近代警察制度を創り、初代大警視（警視総監）になりました。今でも川路の住居跡近くのバス停は「大警視」とか。その後、大久保利通に組みして西郷暗殺の刺客を送り、これが西南戦争のきっかけになったとも言われています。川路は会津藩士を警官に採用し、西南戦争に兵として送り込みます。幕末の会津藩、薩摩藩の戦いの再現です。

『翔ぶが如く』は川路利良のフランス視察から始まり、司馬は西郷、大久保を軸に桐野利秋（人斬り半次郎のち陸軍少将）、川路利良を絡ませて明治維新の群像を長大に描きます。司馬は「私は、（西郷と大久保）どちらが善とも悪とも書かなかった。農民を含めて維新から明治１０年までを、ひとびとがよく堪えたことに大きな感動をもちつづけているのです。」と書いています。しかし、西郷隆盛が西洋留学・遊学しておれば日本の歴史、明治維新は変わったと思わずにはいられません。

帰国した中浜万次郎（ジョン万次郎）はペリー使節団との会談に、スパイ容疑という水戸藩主・徳川斉昭の反対で出席できなかったとか。万次郎はさぞ残念だったことでしょうね。

講義終了後、所沢を襲った雷雨で足止めを食いましたが、「天狗　新所沢店」で午後８時過ぎまで、講師の渡辺先生を交え、暑気払いを楽しくやりました。

暑気払い　　「天狗」新所沢店